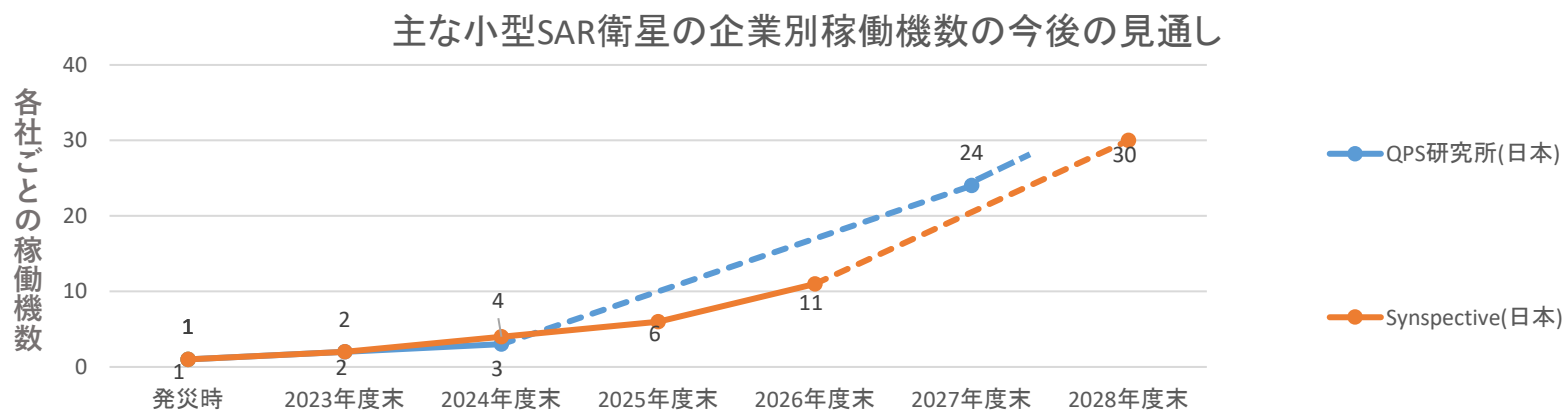


- 国産の民間小型SAR衛星コンステレーション（QPS研究所、Synspective）については、衛星機数が今後急速に増加することで撮像頻度が向上し、災害等の緊急時の迅速な状況把握に有効なツールへ成長する見込み。
- 令和6年能登半島地震発生時点（2024年1月）では撮像頻度が低い（1回/日～1回/数日）状態であったが、衛星機数の増加により、2025年度末には計20回程度/日、2027年度末には約80回以上/日まで高頻度化を目指す。

＜稼働機数の見通し（QPS研究所は2025年4月、Synspectiveは2025年3月時点の想定）＞



注）・上記グラフは、QPS研究所からは5月～4月の期間、Synspectiveからは1月～12月の期間にて公表されている機数を官公庁年度（4月～3月）の期間へ目安としてあてはめたものであり、各社の設定期間とは異なる
・想定撮像頻度は稼働機数の増減、衛星軌道（極軌道、傾斜軌道等）の割合等により変わらう

＜想定撮像頻度、デリバリー時間（撮像後にユーザーに届くまでの時間）の実績と見通し（2024年12月時点の想定）＞

事業者	想定頻度・デリバリー時間	能登半島地震発生時(2024.1)(実績)	2023年度末(実績)	2024年度末(実績)	2025年度末(見込み)	2026年度末(見込み)	2027年度末(見込み)
(株)QPS研究所	想定撮像頻度(日本国内)	1回程度/日	3回程度/日	9回程度/日	約10回以上/日	約20回以上/日	約40回以上/日
	想定デリバリー時間(最速)※	数時間以内			1時間以内		
(株)Synspective	想定撮像頻度(日本国内)	1回程度/数日	1回程度/数日	8回程度/日	約10回以上/日	約20回以上/日	約40回以上/日
	想定デリバリー時間(最速)※	数時間以内			1時間以内		

民間による小型観測衛星コンステレーションの構築加速

- 小型観測衛星コンステレーション分野では、**民間主導**へと構造が変革。

光学衛星

- 防衛予算に支えられ、民間所有衛星は、**機数・分解能で米国が圧倒的に先行。**

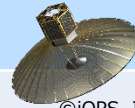
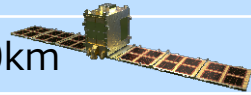
SAR※衛星

- ICEYE(フィンランド)が機数で先行。
- 他方、**日本のスタートアップも分解能・撮像範囲など性能面で拮抗。**

※SARとは「合成開口レーダー」のことであり、SAR衛星から電波を照射して、地球上のデータを取得する技術。夜間・悪天候でも観測可能。

(2025年6月宇宙事務局調べ)

<世界の民間観測衛星コンステレーションの一覧>

	会社名	Axelspace(日本)	Planet(米国) (DOVE)	Planet(米国) (SKYSAT, Pelican)	Maxar(米国)
光学衛星	分解能	2.5m	3.7m	0.57~0.3m	0.5~0.29m
	撮像範囲	55km	32.5×19.6km	6.6km※4	9km※5
	機数の実績※1	5機	約110機	17機	10機
		 ©Axelspace	 ©Planet	 ©Planet	 ©Maxar
	会社名	QPS研究所(日本)	Synspective(日本)	ICEYE(フィンランド)	Capella(米国)
SAR衛星	分解能(Az×Rg)※2	0.46m×0.46m	0.25m×0.46m	0.25m×0.23m~	0.25m×0.38m~
	撮像範囲※3	14x7km	50x20km	50x30km	100x10km
	機数の実績※1	5機	4機	非公表	非公表
		 ©iQPS, Inc.	 ©Synspective Inc.	 ©ICEYE	 ©Capella

※1明らかに運用終了を公表した機数は除外 ※2 Spotlightモード ※3 Stripmapモード ※4 Skysatの値 ※5 WorldView Legionの値